

農業共済新聞

NOSAI
 全国農業共済協会
 東京都千代田区一橋町19
 910-6411 03-5281-6413
 発行所 東京都千代田区 303-10-0-7888
 月刊4号・水電料発行
 03(5281)6413
<http://www.nosai.or.jp/>

**スギナに
ハービー液剤**
 土かき直された天然地除草剤

注目の木質ペレット

石油高騰を背景に、施設農業用の代替燃料として木質ペレットの利用が注目されている。施設農業用農業用ペレットボイラーを使った加温施設の実証試験に取り組み山形県内地方では、「燃料費を約半分に抑えられた」との声が聞かれる。実証試験に使っているボイラーは、農家と地元企業が共同開発した。現在、市販されているペレットボイラーと比べて小型で、安価な価格設定がされる見込み。今年の秋以降、本格的な普及が期待されている。

山形県内地方 農家と地元企業がボイラーを共同開発

「11月から設置したいが、今のうちに準備がたい」とは、鶴岡市平岡町の鈴木武志さん(58)。「この施設は、山形県農業振興公社が、山形県内地方で、ペレットボイラーの共同開発を進めている。今年、秋以降、本格的な普及が期待されている。今年、秋以降、本格的な普及が期待されている。」



「最初に自分の施設や作物に合わせて、火力調整などのセットをすれば、後は使い勝手が良い」という鈴木さん。備や戻も少ない。

「最初に自分の施設や作物に合わせて、火力調整などのセットをすれば、後は使い勝手が良い」という鈴木さん。備や戻も少ない。

「ボイラーの普及に伴ってペレットが不足するようでは話にならない。安定供給できる体制を確保してもらいたい」という阿部さん



小型・安価で施設園芸のコスト削減に期待



燃料費の節約ですぐ元が取れるとして、その投資への足を踏んでしまう。行政やJAでぜひ導入費助成やリース事業などを計画してほしい」と話す。

農家の要望を 開発に反映

鈴木さんや阿部さんが取り組む実証試験は、株式会社渡合電気(鶴岡市、渡合祥社長)が庄内地域を中心とした農家がモニター利用を依頼しているもの。鶴岡市で11人、酒田市で2人、遊佐町1人、鮎川村1人の、合計15人が協力している。

「夜間にペレットが途切れないうつ、タンクの容量を増やしてほしい」、「明け方の冷え込みに対応して、火力が上がりやすくなるようにしてほしい」など、農家の要望を踏まえて改良し、今年の秋から本格的に普及させたいという。タンクの容量は45リットルから60リットルに大型化し、サーモスタットの火力調整はオプション機能とする方向だ。

このペレットボイラーは、従来の市販の小型で安く、農家が導入しやすいボイラーとして開発された。導入の目安は3・3〜4坪に1機。原型となったライオプを酒田郡山の農家・阿部武志さん(58歳・取木シヤタケ1方宅)が提供し、渡合電

気士と製造元、有有限会社山木工場(酒田市、山木広孝社長)が製造に乗り上げた。本体価格は約6万5千円前後になる予定という。

燃料のペレットには、庄内地方の日本海沿岸に植林されたクロマツ林から出る松枯れ被害木の幹を利用。熱量が高く、均質で燃焼効率の高い燃料となっている。

ペレットボイラーの開発・普及に向けた取り組みは、酒田市が06年3月に設置した「地域エネルギー導入検討協議会」からスタートした。砂土地を中心に、花やイチゴの加温栽培が盛んだが、05年ごろから灯油の高騰で農業経営が逼迫し、早急な対策が求められていた。協議会には市、県、JA、渡合電気士木が参加し、協議・実証試験を重ねてきた。

協議会事務局を務める酒田市農林水産部農政課の小松原敏彦は「ペレットボイラーの開発から始まり、ようやく実用段階に近づいた。導入するが否かの最終判断は農家に任じたいが、希望を募って普及を図りたい」と話す。

酒田では本年度、ペレットボイラー導入費の半額を助成する補助事業を、市単独で創設。隣接する鶴岡市でも今年1月、ペレットボイラーの現地検討会を開催。導入支援につなげ、今年度の予算措置はしていないが、農家の動向や意見を踏まえ、今年の冬に向けて検討したい(農林水産部農政課)としている。

2面へ続く